

YO-U

瓔



2020. 12. Vol.20 No.4 Winter

完結号

影法師

火箱 ひろ

鶏に追っかけられて秋がくる
 ひとりごと言うてうふふふマスクット
 空は空色風は風色小鳥くる
 小鳥来るとつちらかったままですが
 ぽつぽつと狐の嫁入り鳳仙花
 秋の日のどこまでキリンの影法師
 カバのあくびゴリラのあくび秋ですね
 天高くちようだいをする象の鼻
 雀すずめ蛤になりどうすんねん
 稲刈って雀少子化問題も
 復活教会ザクロの中の赤い闇
 しんとしてほら冬が来るそんな窓

おはようびげんます

松井 季湖

揚げ油バチンとはねて送り梅雨
 腕時計はずして置いて夏料理
 夏の夜の夢のつづきの眉引きぬ
 ガリバーになって夏雲またぎたし
 「ヒロシマ」と表記す蝉の声うねり
 落蟬のふるえて揺るる瀧
 供物台暮れてほおずき灯りかな
 普段着にもどる仏壇盆の東風
 秋が来ている用足しの五十歩に
 碓星心配性で口下手で
 コスモスゆれて寂しがりやの膝小僧
 鶏頭をポンとおはようございます

子どもがいらないせいか、自分のものであ
 まり後に残したいモノはない。残されても
 一族郎党が困るものばかりだろう。
 一枚の大切で大好きなハガキがある。
 俳句誌「星だより」の主宰、画家でもあ
 る田代青山先生からの、句集『えんまさん』
 へのお葉書だ。それには
 白露なる地球しばらくいるつもりとい
 う俳句とともに、素敵な貼り絵がしてある。
 二十年大切にしてきた。ぽっかり宇宙に浮
 かぶ地球の写真とともに、リビングに飾っ
 てあるのでいつも見る。
 残したいものは、この地球の自然かな。
 俳句してみんなと遊んできた自然だ。
 そしてみんなみんないつかは自然に還
 る。
 また会おうね！ 俳句しようね！

惣菜作りの仕事をしている。昔ながらの
 定番料理のほか、ちょっと目新しい料理や、
 プームになった食材を使った料理など、あ
 りあてもない、こうでもないと試行錯誤しな
 がらやってきた。
 先日、白和えを作っていてふと思ったの
 は、このシンプルで美しく栄養のバラン
 スのとれた惣菜を、是非とも次世代に伝
 えたいということ。一日置きに作る白和え
 は、いつも早いうちに売り切れる人気商品
 だ。お客様は決まって「こんな面倒臭いこ
 とできひんわ」とおっしゃる。豆腐の水切
 りが大変、他に使い道のなさそうな練りゴ
 マが結構高い、等々。大丈夫、秘策がある。
 それはまたいつかの機会にお話しすること
 にしよう。
 ただ、買ってくださいなのが、六十代以上
 の方が多いというのが気になる。白
 和えのみならず、手間ものは家庭料理とし
 て残っていくのは難しいのかも知れない。
 先ずは、娘に伝えておきたいと思う昨今で
 ある。

私たち

おーた えつこ

コロナちう名前美し夏の空
 猫である蟬食うている猫である
 猫伸びて伸びて籐椅子からずるり
 誰もいない広場や草いきれの濃度
 私たちずっと友だち虹二重
 どうもろこし剥けばゴッホの黄色かな
 細道をべろんべろんと月夜茸
 秋日差す白髪にぼやっと天使の輪
 友だちを待ってる地べた空高し
 クリップでぱちんと留める秋思かな
 肩組んで頬寄せ合って捨案山子
 夜の案山子ちっと海など見て来よか

星月夜

たかはし すなお

いわし雲父のめがねは丸眼鏡
 色鳥やマスク習慣身に付いた
 流星のかげら屋根裏部屋の窓
 世界一しあわせもんだと蛇穴に
 赤えんまご一緒にしますお墓まで
 しんしんと吾を呼ぶ声夕化粧
 強面のこのだっこ紐龍淵に
 みよちゃんの赤い長靴稲を刈る
 台風の肥大膨大無限大
 モルモット欠伸ぼわんと秋うらら
 妖精のかそけおなら星月夜
 へこへこの鍋ほとほと秋茄子

次の世代に引き継ぎたいもの。

それは「平和」

「コロナ」が猛威をふるっている。死者が百万人を超えた。まだまだ増えるだろう。でも第二次世界大戦の犠牲者は五千万人とも八千万人とも言われている。コロナの死者数と比べものにならない。平和だからこそ、「コロナ」にも立ち向かっていけるのでは、「平和」って難しい事だと思っけど、何よりも大切なもの。

今まで普通にしてきた日々の生活が、「コロナ」で一変した。でも今、日本は戦争でなくて良かったと思っっているのは私だけだろうか。

遠くなる

じつ ぬきい

みどり児の目覚めゆっくりもう秋が
黄のカンナ嬉しい言葉探してる
引き出しの緑の手帳秋の声
まだいるよ秋がゆっくり来てるから
遠くなる空と友だち花木権
夕暮れの坂道ひとりつづれさせ
秋草の匂い今ごろ黒電話
きっかけは昨日の帰り秋の虹
どの窓も開ける月明り届くよう
カフェラテと話たっぷり冬が来る
零余子飯の話いまごろ弟と
ついて行く桜紅葉になっていく

十年程前、遺言句を詠むことがあった。
エンディングノートに代わりに、息子への
一句を残した。
ひばりひばり育てよ君もひばりの子
ヒナが生まれると親鳥は急に忙しくな
る。力を合わせて餌を運んでヒナが大きく
なり、巣立ちの日まで大切に育てる。大空
で羽ばたける日までが子育てだ。
面と向かい合って話す機会がないまま、
羽ばたいて行った我が家のひばり。夫は、
「何も言わなくても分かっているはず」と
いつもの決まり文句。そう言えば晴れの日
のメッセージカードに、「親父の仕事に妥
協しない姿勢を見ていたから俺も」と普段
着の言葉で書いてあったなあ。
いいお父ちゃんになった息子はひばりの
親鳥の様に力を合わせて、未来を担う子供
たちと一緒に学び楽しんでる。

散髪

辻 響子

豆苗がもぢやもぢや育つ星月夜
たまり場に持ち寄る月見団子他
十五夜やもののけ深く息を吐き
月明し錠前解かるおもちや箱
満月や振り向く猫のオッドアイ
秋空に「私は泣いています」ばかり
秋高しクツキー缶に熊詰めて
着信の赤いランプ暑い十月
パン耳は色鳥と分け庭じまひ
木の実降るハンコ注射の跡愛し
アトリエの胸像ヴィーナス秋惜しむ
太ペンで散髪と書き秋日和

今の生活に満足しています。それは多
分、前世代が残してくれた事や物のお陰だ
と思っていますから、私も次世代に何かを
残すことが筋でしょう。
若者は農村部には留まらず、津駅から
二〇分ほどのブチ田舎のわが町内も、御多
分に漏れず高齢者はかり。定年退職をした
おっちゃん達が集まり定例草刈をしていま
す。
草はちよつと目を離すと直ぐに手がつけ
られなくなり、荒地、原野へと変化します。
鳥が運んだ種で田畑は雑木林になるでしょ
う。
オラが村を守るべさ、とおっちゃん達の
地道な活動のお陰で、荒れることなく次世
代にバトンタッチができるはず。
次世代！おっちゃん達の汗と楽しく働く
姿勢を、どうか受け継いでほしい。
次世代！待つから。君達が退職するまで、
おっちゃん達のお尻を叩き続けるから。
君達の育ったこの土地は、これから益々
素敵になるから。

甘ずっぱ

辻 水音

椋鳥の点点ソーシャルディスタンス
 もも色はママの歯ブラシ色鳥来
 柿熟れて市民検診推進課
 天高しふいに赤子を見せくるる
 さはやかに赤子甘ずっぱきものよ
 シーソーに跨りひとりつく法師
 月明りしてたましひを再起動
 秋川に浸す椰子の実らしきもの
 氏神さんへ酒一升と新米と
 秋晴れて地球かるがる抱へ来る
 木の実落つ僕のバイトの着ぐるみに
 つつ伏して芋虫のごと寝入りけり

団欒色

はしもと 風里

星月夜星の数ほどピアノニスト
 秋灯のくらく明るくクリニツク
 ポシエットの長きフリンジ小鳥来る
 とりどりのマスクの下の素顔かな
 祖母の好みしラヴィアンローズ秋深む
 お彼岸のシャインマスカットが光る
 お月見の部屋に家族が揃はない
 虫しぐれ団欒色といふ灯り
 紅芙蓉朝のしづくを滴らせ
 墨書きの手紙の温みうろこ雲
 ステイホーム金木犀の香が遠い
 かなしみは深くにしまひ冬銀河

どの家も新聞を購読するのは当たり前だ
 と思っていたが、そうでもないらしい。コ
 化が進みニュースはスマホやパソコンで済
 むから、これからは新聞離れがもつと多く
 なるかもしれない。朝と共にやって来る印
 刷のいい匂いや、お構いなく広げて読む家
 族の姿も残したいものの一つ。

先日、回転寿司に行ったらロボットの
 ペッパー君が「イラッシャイマセ」と出迎
 えてくれた。最初は驚いたが目が愛くるし
 く、声だつて嫌いではない。待つ順番が来
 るとちゃんと呼んでくれて、私情を挟まな
 いから、仕事の効率もよさそうだ。

世の中の進歩でロボットが雇用される
 と、人員削減で人間がいらなくなる。おの
 ずと心が通う対応が望めなくなるというわ
 けで、次世代に残したい二つ目は、人間に
 しかない真心という優しさです。

来客も少なくなつた頃、暇そうなペッ
 パー君と一緒に写真を撮つて帰つた。

今春、若い友人が出産した。本を贈らう
 と決める。青山のクレヨンハウスに出かけ
 たいが、コロナを皮切りに、外出など考え
 られない心情を抱えることとなり断念。

蔵書のなかから心を込めて選んだ二冊。
 赤ちゃんには真つ新な絵本。『おやすみの
 キッス』赤やピンクの鮮やかな色に赤ちゃ
 んの脳がわくわくしそうだ。

お母さんを選んだのは『だから、生まれ
 てきた。赤ちゃんの伝言』宇佐美百合子著
 リヨン社。私は子育てが終つてからこの本
 に出合い、ああ、早く読みたかつたと心か
 ら思つたものだ。繰り返しページをめくり、
 その都度胸を熱くした。

「紙の本」その手触り、匂い、愛読書の
 色の褪せ、全てをふくめて次世代に残した
 い。

妖精

波戸辺 のぼり

リモートで動かせませすか茄子の馬
晩夏光シャンディガフにたつぷりと
ゲルニカの女突いてる秋夕焼け
赤とんぼ黄泉平坂すいと越え
謎解きのあとの西瓜の種の謎
肉体派と言われて育つパンプキン
若者の跳ぶ蹴る走る秋の影
秋遍路羽衣あれば飛べるのに
習志野はあいつの母校天高し
妖精の座る切り株星月夜
ハミンダの「コーヒールンバ」小鳥くる
つぐみつぐみ村でひとりの赤ん坊

珊瑚集

古本

林田 麻裕

好きですと打っては消して夜長かな
鬼灯に触らないでよ触れるのよ
古本を一冊買おう涼新た
スーパーの行きと帰りと赤蜻蛉
秋日傘グラツツイエって言ってみたい
扇置く凝った料理でもしようか
叱られていいような朝秋気澄む
パスタ茹で上がり秋思と湯を捨てる
秋の蠅葉になつてみたいのか
ポニーテールほどこいて秋の夜りりり
水玉がバタバタバと秋の朝
君の目の奥に九月を見つけたわ

珊瑚集

今はスマホを開ければニュースが読める。でも、新聞でゆっくりと読むのが好き。朝食のあと、仕事がない日は一時間ほどかけて、隅々まで目を通す。新聞小説は続きが待ち遠しい。週刊誌の宣伝は見出しだけで大体のことは分かるから、その手の本は買ったことがない。

株主優待が目的で最小単位を持っている、ケンタッキーとホクトの株価もチェック。ふたつとも食べ物関係ということが、食いしん坊の私らしい。株価を見ていると国際社会情勢が、経済とリンクしているのがよくわかる。コロナ後に世界がどうなるのか、恐ろしくなる。

色々な情報や文化が詰まっている新聞が、朝起きたら、自宅のポストに届いている有難さ。その陰に多くの人が黙々と働いている尊さ。新聞配達というシステムが、いつまでも続くことを願ってやまない。

朝十一時、スーパーから帰宅。E2ラジオをつける。買った物を冷蔵庫に入れて手洗いうがい。バナナ一本とカフェオレをおやつに、さあラジオ聴くわよ。

ピアノストがピアノでポップスや演歌、童謡などを弾いてくれる番組。地味だが癒される。話し方も優しい。月曜日から木曜日までの二十分の番組、毎日聴いている。趣味で毎日ピアノを弾いているが、この番組のおかげかピアノを嫌いにならない。そういう人は結構いたりして。

ラジオは電気代あまりかからないし、何かしながら聴けるし、テレビを見るより心が豊かになる気がする。ラジオは次世代に残ってほしい。